

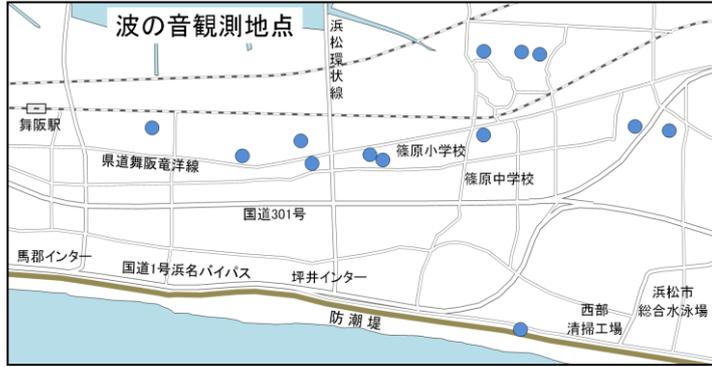
# しのはら歴史便り

篠原地区歴史同好会 / 浜風会会報 No.39

浜風会/入会募集中  
毎月第1,3木曜日

## 波小僧の音は聞こえるか 観察活動を始めました

少し前のことですが、平成八年環境省は「残したい日本の音風景100選」を発表しました。「遠州灘の海鳴・波小僧」がその中の一つとして選定され、まさに守り伝えていきたい音風景となりました。



海沿いの人たちにとっての波の音は、海の様子を知り、この先の天気予測する要素として、生活の中で当たり前の存在でした。しかし時代の変化と共に、だんだんと忘れられるようになってしまいました。

感ずることは出来ないだろうかと考えるきっかけとなりました。

さらに令和二年六月NHKの番組「新日本風土記 妖怪の国・精霊の森」で遠州灘の波の音と波小僧に関する取材が篠原の浜で行われ、七月に放送されたことから波の音とこの地域との深い関係を強く感じたのです。

浜風会は二年十一月「波小僧探求大作戦」と名付け、会員が自分で場所(上の地図に示します)と時間を決めて波の音・天気・風向き等を記録する活動を始めました。主眼は先ず自分の耳で波の音を聞くことです。活動が始まり、最初は聞こえないと言ったが、慣れてくると海が荒れれば聞こえるのが分かり、国道の自動車の音



10月1日台風16号通過で波しぶきを噴き上げる大荒れの海。うなるような波の音は住宅地でも聞こえました

との区別に苦労しながらも続けることが出来ています。問題の天気との関係では、南東寄りの風で天気が崩れると聞こえてくるのが確認できています。

今年は台風が少なく夏の土用波がこない不思議でもむしろ異常を感じるような海でした。風が来ることを知らせるといふ太鼓のような音が観測出来ていません。これは来年の課題です。私達が聞いた波の音はなんとかして録音できないものだろうか。日本サウンドスケープ協会の先生方のご協力をいただき、防潮堤と住宅地の録音に挑戦してきました。まだ満足するものになっていないので、これも来年の課題です。まだまだ挑戦が続きます。(鈴木忠)



10月3日台風が過ぎ去ったのどかな海。日曜日で釣り人、サーファーや子供達の楽しむ海岸になっていました

# 家庭の年中行事

浜風会の会員に、家庭の年中行事を現在どの程度に実施しているか、アンケートで聞いてみました。結果は下表のようになりました。

「生活に潤いと節目」の役割がある年中行事は、だんだん行われなくなった気がします。まとめること次のが言えます。(私見)

- ① 先祖供養は大事にしている。
  - ・お盆行事／お彼岸お墓参り
- ② お祈りに関することは熱心
  - ・歳神まつり／氏神様参拝／恵比寿講／節分
  - ／お天王様／地の神様
- ③ 自然崇拜は前浜があるから定着
  - ・初日の出参拝／潮の華
- ④ 食べ物で年中行事に彩を添える
  - ・雑煮／おせち／七草粥／ぼたもち／柏餅
  - ／おはぎ／赤飯／年越しそば等



水平線から初日の出

※年を重ねると共におっくうになってきていませんか？  
 ※「家庭の年中行事」は、次の世代に伝承することも心掛けたいものです。

(山下勝彦)

| 月   | 年中行事名 (やられている割合)     | 食べ物関係 (やられている割合)    |
|-----|----------------------|---------------------|
| 1月  | 1日 歳神まつり 77%         | 1~3日 雑煮 100%        |
|     | 1日 初日の出 参拝 (前浜) 70%  | 1~3日 おせち 92%        |
|     | 1~3日 氏神様参拝 85%       | 7日 七草粥 54%          |
|     | 20日 恵比寿講 (ご馳走) 54%   | 11日 鏡開き 62%         |
| 2月  | 3or4日 節分豆まき 70%      | 3or4 恵方巻 70%        |
|     | 14日 バレンタインデー 31%     | 8日 八日餅 (事始め) 0%     |
| 3月  | 3日 雛祭り (雛飾り) 23%     | 3日 桜餅、蓬餅 15%        |
|     | 14日 ホワイトデー 15%       | 春分の日 ぼたもち 62%       |
|     | 春分の日 春彼岸 (お墓参り) 85%  |                     |
| 4月  | 3/末~4/上旬 お花見 15%     |                     |
| 5月  | 5日 端午の節句 菖蒲湯 0%      | 5日 (柏餅) 70%         |
|     | (第2日曜日) 母の日 23%      |                     |
| 6月  | (第3日曜日) 父の日 54%      |                     |
| 7月  | 14日 お天王様 (祇園) 参拝 54% | 土用の丑で鰻 70%          |
| 8月  | 7日 七夕まつり 8%          |                     |
|     | 13~15日 お盆 (迎え火等) 85% |                     |
|     | 14日等 盆義理 100%        |                     |
|     | (陰暦15日) お月見 15%      |                     |
| 9月  | (陰暦13日) 十三夜お月見 23%   | 秋分の日 おはぎ 62%        |
|     | 秋分の日 秋彼岸 (お墓参り) 85%  |                     |
| 10月 | 9~10日等 神社祭り 62%      |                     |
| 11月 | 1日 神様のお立ち (出雲へ) 54%  |                     |
|     | 20日 恵比寿講 (ご馳走) 62%   |                     |
| 12月 | 15日 地の神様 (赤飯) 77%    | 8日 八日餅 (事納め) 0%     |
|     | 15~末 年賀状 100%        | 22日 冬至のかぼちゃ 70%     |
|     | 1~末 大掃除 85%          | 24日 クリスマス (ケーキ) 15% |
|     | 28~31日 餅つき (お餅) 23%  | 31日 年越しそば 92%       |
|     | 28~31日 潮の華 62%       |                     |

アンケート：実施日 令和3年9月2日 参加者13名 篠原地区在住 (60歳以上)

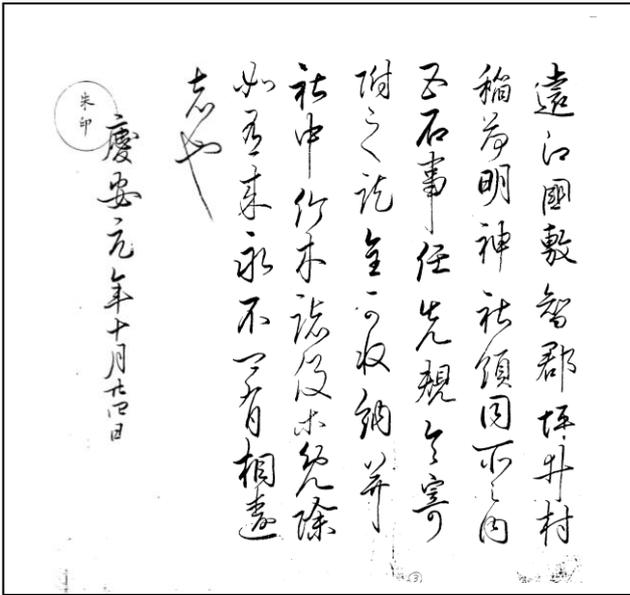
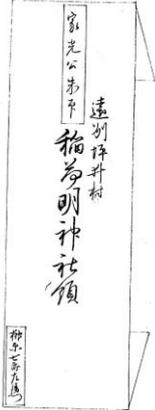
# 稲荷神社の古文書紹介

坪井の稲荷神社は『浜風と街道』で、「赤い鳥居の稲荷神社」として紹介され、永享十二年（一四四〇）伏見稲荷より勧請したと言われています。篠原地区では神明宮、西神明神社、春日神社と共に古いお宮です。

また天正十六年（一五八八）に建てられた社殿の棟札及び、文化十三年（一八三九）に建てられた鳥居については、「しのはら歴史便り」2号と17号で紹介されています。

ここでは二つの古文書を紹介いたします。

## 『旧幕府朱印証文写』（左図）



これは明治維新における太政官通達で、「御一新」となったので、旧幕府が発行してあった判物の差出を命じられ提出した控えです。稲荷神社領は五石を与える事等で、全て同じ内容です。次の九代の将軍から全部で九通ありました。

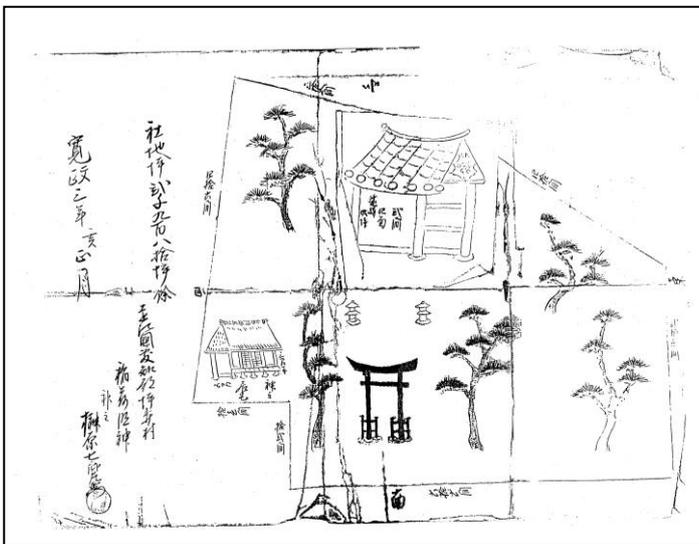
- ・慶安 元年（一六四八） 徳川家光将軍
- ・貞享 二年（一六八五） 徳川綱吉将軍
- ・享保 三年（一七一八） 徳川吉宗将軍
- ・延享 四年（一七四七） 徳川家重将軍
- ・宝暦十二年（一七六二） 徳川家治将軍
- ・天明 八年（一七八八） 徳川家斉将軍
- ・天保一〇年（一八三九） 徳川家慶将軍
- ・安政 二年（一八五五） 徳川家定将軍
- ・万延 元年（一八六〇） 徳川家茂将軍



## 稲荷神社絵図（左図）

この絵図は寛政三年（一七九一）に描かれ、絵図の中に既に鳥居が見えます。この鳥居は何時建てられたかは不明ですが、西部鳥居といい赤く塗られ今あるものと同じです。今、奥にある石造の稲荷鳥居は、文化十三年（一八三九）に建てられたので、絵図にはありません。

その他注目「社地坪式千九百八拾坪余」とあるように、土地の形状や寸法がしっかり記されていて、現在ある礎が既に出来ていた感です。周辺には松が植えられており、今ある鎮守の森が予感されます。（山下勝彦）



# 「花の会」と共に

花の持つ美しさこそ不思議な力に魅せられて、三十余年になります。その間皆さんに助けられ支えていただき感謝の気持ち一杯です。「篠原花の会」での思い出をまとめてみました。

## 「篠原花の会」は昭和六十一年発足

浜松市の「緑を守り育てる運動」の一環で「花いっぱいコミュニティ緑化連絡協議会」が設立され、昭和六十年から、公民館毎のグループで活動が開始されました。篠原も篠原公民館や地域の皆さんのご指導を受けて、「篠原花の



発足間もない頃の公民館前に飾られた花々

会」として昭和六十一年十二月に設立され、会

員は十五人でスタートしました。会の目的は、「花づくりを通して緑と潤いのある町づくり、地域づくりをボランティア活動として行い、コミュニティの輪を広げる」としています。

当初は種まき、苗の移植、花壇の手入れなどで、失敗もありましたが、四季を通じて育てた苗を植え、花を咲かせ、公民館を訪れる人達や道行く人の心を和やかにすることを目指し、花いっぱい運動を展開して来ました。平成十四年には市が管理する道路を、自治会や篠原地区の各種団体が協力して道路の良好な環境をつくるつ（アダプトロード活動）と、国道沿いに木製のポットを設置しました。

## 浜名湖花博に協力、感動

平成十六年には浜名湖花博が開催され、全国から花の愛好者が集まり、私達もボランティアとして参加し、世界の花の歴史や文化を学びました。赤、青、黄、白と色取り取りとりどりに咲く花は、私達の心を癒してくれとても幸せな気持ちになりました。



皆さんとアダプトロードの活動

これからも花いっぱいの協働センターに

私は既に引退しましたが、花の会は発足以来三十五年が経過し、充実した活動が続いています。浜松市から配付される種をまいて、ポットに取り、花壇に植え込み、水かけは当番制で行っています。花の好きな人達なので、毎日おしやべりをしながら楽しく作業をしています。

春と秋には小学校と中学校に苗を贈ったり、協働センターまつりに来られる人三百人に配布したりする活動もしています。

しかし会員は高齢になっていくので、花の好きな若い方には是非花を育てる輪に加わって下さい。

協働センターが花いっぱいになっていくことを、これからも応援しています。

(安藤澄子)

浜風会会報第39号  
篠原協働センター同好会「浜風会」  
(篠原地区郷土の歴史を学ぶ会)  
編集委員 委員長 山下勝彦  
鈴木忠 鈴木理市  
藤田博辞 山中道弘  
発行責任者 山下勝彦  
発行 令和4年1月1日